

【主担当部局：農林水産部】

県民の皆さんとめざす姿

県産材の需要が拡大し、活発な林業活動が展開されることにより、持続的な森林資源の育成と活用が進むとともに、県民の皆さんがさまざまな形で森林づくりに参画しています。

平成 31 年度末での到達目標

建築用材や木質バイオマスなど、さまざまな用途での県産材の利用が進み木材生産量が増加するとともに、若者が林業の現場に定着し、間伐などの森林整備のほか、主伐に伴う再生林等が着実に実施され、森林の循環利用につながっています。また、森林環境教育や木育の実施など、森林に親しむ機会が増え、さまざまな主体による森づくり活動が活発に行われています。

県民指標						
目標項目	27 年度	28 年度	29 年度		30 年度	31 年度
	現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値
県産材（スギ・ヒノキ）素材生産量		366 千 m <sup>3</sup>	387 千 m <sup>3</sup>		406 千 m <sup>3</sup>	426 千 m <sup>3</sup>
	303 千 m <sup>3</sup>	316 千 m <sup>3</sup>				
目標項目の説明と平成 30 年度目標値の考え方						
目標項目の説明	県内で生産されるスギ、ヒノキの供給量					
30 年度目標値の考え方	「三重の森林づくり基本計画 2012」に定める平成 37 年度の素材生産量を確保していくため、現状値を基準にして必要な素材生産量を算定し、目標値に設定しました。					

活動指標							
基本事業	目標項目	27 年度	28 年度	29 年度		30 年度	31 年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値
31301 県産材の利用の促進（農林水産部）	「三重の木」認証材等の製材出荷量に占める割合		22.0%	23.0%		24.0%	25.0%
		21.7%	24.7%				
31302 持続可能な林業生産活動の推進（農林水産部）	森林経営計画認定面積（累計）		47,000 ha	52,000 ha		57,000 ha	62,000 ha
		45,427 ha	51,652 ha				

基本事業	目標項目	27年度	28年度	29年度		30年度	31年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値
31303 林業・木材産業の担い手の育成（農林水産部）	新規林業就業者数		41人	42人		43人	44人
		41人	49人				
31304 森林の適正な管理と公益的な機能の発揮（農林水産部）	公的森林整備面積		2,000ha	2,000ha		2,000ha	2,000ha
		2,775ha	2,402ha				
31305 みんなで支える森林づくりの推進（農林水産部）	森林づくりおよび森林環境教育などの活動の進展度		60,000人	62,000人		64,000人	66,000人
		58,692人	60,757人				

## 現状と課題

- ①県産材の需要拡大を図るため「三重の木」認証事業者が連携して行う「三重の木」等をPRする取組への支援や、尾鷲ヒノキが「日本農業遺産」に認定されたこともふまえ、東京オリンピック・パラリンピック関連施設等への採用に向けた森林認証材のPR、販路拡大に向けた新たな木製品の商品開発等を進めています。また、付加価値の高い製品の輸出に向け、ジェトロ三重を通じて、韓国で開催される見本市の情報収集および出展に向けた打合せを行っています。引き続き、木材の最も価値の高い部分であるA材の、内装材、家具等へのさらなる利用拡大、原木より付加価値の高い製品での輸出促進などを進める必要があります。
- ②平成30年に稼働予定の紀伊半島初となる合板工場への原木（B材）の安定供給に向け、県内の木材市場9者と供給体制の構築に関する意見交換を行いました。また、県内3か所で稼働している木質バイオマス発電所への木質チップ燃料（C材）の供給体制の整備を図るため、高性能林業機械等の導入や枝葉等の現地チップ化の取組に対して支援しています。引き続き、今後需要の増加が見込まれるB材、C材の安定供給体制の構築を早急に進める必要があります。
- ③素材生産量の増大に向け、低コスト造林や搬出間伐、森林経営計画に基づく森林施業の集約化を促進しているほか、林道、作業道などの路網整備や高性能林業機械の導入等を進めています。県内の森林資源を有効に活用していくため、林業事業者による生産活動と併せて、木の駅プロジェクトや自伐型林業の推進など多様な主体による林業生産活動の活性化を進めていく必要があります。
- ④林業の新規就業者の確保を図るため、就業・就職フェアにおいて林業就業希望者等に対して相談対応等を行うとともに、高校生への林業職場体験研修（計4校で実施予定）を開催しています。林業従事者数は減少傾向にあるなか、新たな担い手の確保を進める必要があります。
- ⑤次代の森林・林業を担う経営感覚を持った人材を育成していくため、林業講座「もりびと塾」林業体験コースを7月に開講するとともに、9月からは林業リーダーコースを開講しました。今後は、新たな人材育成機関「みえ森林・林業アカデミー」の開講に向けて、産学官連携組織を設立し、オール三重でのサポート体制を構築するなど、具体的な準備を進める必要があります。

- ⑥森林の有する公益的機能が十分に発揮されるよう、環境林における間伐等の森林整備を促進するとともに、「みえ森と緑の県民税」を活用し、20か所で流木となるおそれのある溪流沿いの樹木の伐採・搬出を進めています。また、全国で豪雨災害が多発するなど、自然災害の発生リスクが高まっており、「災害に強い森林づくり」や間伐等の森林整備と併せて、不適切な伐採・開発行為の未然防止や指導の徹底など、森林の適正な管理を進める必要があります。
- ⑦森林づくりを社会全体で支えていくため、新たに菟野町において「企業の森」の協定締結に向けた調整を2件進めているほか、鳥羽市において県民参加の植樹祭や木と触れ合うイベントを開催（10月）しました。また、森林ボランティアや企業の森に参加する方等を対象に基礎的な技術や安全管理に関する研修を実施しました。今後も、さまざまな主体による森林づくりが進むよう、森づくり活動団体の増加に向けた支援を進める必要があります。
- ⑧森林環境教育や木育に取り組む市町、学校、NPO等を支援するため、「みえ森づくりサポートセンター」を総合相談窓口として、学校等の要望に応じた出前授業（7回）や、森林環境教育の指導者の養成講座（3回）などを開催しました。また、飯野高校との連携によりデザインされ、10月に運用を開始した木育バスも活用しながら、木育を幅広く県民に広める「ミエトイ・キャラバン」（9回）の取組を進めています。引き続き、これらの取組に加え、効果的な森林環境教育や木育の推進に向けた、指導者や活動団体と学校などをつなぐコーディネートを進めていく必要があります。
- ⑨「みえ森と緑の県民税」の市町交付金事業を活用し、地域の実情に応じたさまざまな森づくりを進めています。また、税事業の成果について広く県民の皆さんに周知するため、市町と連携してケーブルテレビ等での取組成果の発信や、成果発表会（7月）を開催しました。また、平成30年度は税の施行後5年となり見直しの時期にあたることから、今年度から市町・関係団体への意見照会（50団体）、県民参加のワークショップの開催（14会場266名参加）、アンケート調査等を実施し、現行制度について県民から幅広い意見聴取を行いました。引き続き、より良い制度となるよう成果の検証や様々な主体との意見交換を進める必要があります。

### 平成30年度の取組方向

- ①県産材の需要拡大に向けて、地域の工務店や建築士等へ「三重の木」等による住宅建築を働きかけつつ、地域材によるサプライチェーン構築に向け製材所等とのマッチングを進めるとともに、公共建築物等における木材利用を推進するため、低層建築物の木造化に関する設計や提案ができる人材の育成に取り組みます。また、「日本農業遺産」の認定を契機とした尾鷲ヒノキの魅力発信やブランド価値の向上とともに、東京オリンピック・パラリンピック関連施設における内装や設備品等への森林認証材の利用促進に向けたPR活動を行います。さらに、韓国での県産材製品のPR活動の成果を生かし、商談の機会を創出するなど、付加価値の高い木材製品の輸出促進に取り組みます。
- ②合板用材となるB材の安定供給体制の構築に向けて、木材市場、素材生産業者、合板工場等が連携した協議会を開催し、素材生産量の増大と原木の安定供給を促進します。また、バイオマス発電の木質チップ燃料となるC材の供給量増大に向けて、高性能林業機械等の導入や、枝葉等を効率的に収集運搬する取組について引き続き支援します。
- ③素材生産量の増大を図るため、森林経営計画の作成推進による森林施業の集約化、伐採と再造林を一体的に行う一貫作業システムや植栽本数の低減による低コスト造林の推進、製材・合板工場等への原木の供給力強化に向けた搬出間伐を促進するほか、路網等の基盤整備を実施します。また、地域の自立的な林業活動を活性化するため、木の駅プロジェクトや自伐型林業の促進に向けた研修会を開催します。

- ④新規就業者の確保を図るため、就業・就職フェアにおいて林業就業希望者等への総合窓口として、希望する職種、事業体とのマッチング、移住等に関する様々な相談対応を実施します。また、新たな担い手となる高校生への林業職場体験研修を引き続き開催します。
- ⑤多様な経営感覚を持ち、中山間地域を担う林業人材を育成する「みえ森林・林業アカデミー」について、林業講座「もりびと塾」の成果や、林業関係団体等からの要望等をふまえ、めざす人材の育成に向けた講師陣やカリキュラムの検討、研修フィールドの選定等を進めます。また、平成30年10月にアカデミーのプレ開講として、記念シンポジウムや公開講座を実施し、平成31年4月の本格開講に向けたPRに努めます。
- ⑥環境林における間伐等の森林整備を促進するとともに、流木となるおそれのある溪流沿いの樹木の伐採・搬出を行うなど、災害に強い森林づくりを進めます。また、森林法に基づく適正な伐採、開発行為が行われるよう、国や市町、関係機関と連携を密にしながら事業者等への適切な指導を進めます。
- ⑦森林づくりへの県民参画を進めるため、引き続き、企業や森林ボランティアなどへの情報提供や森林とふれあうイベントの開催、県民参加の植樹祭など、さまざまな機会の創出に努めます。また、自主的な森づくり活動を促進していくため、活動に必要な道具の貸出や、森林整備に対する正しい知識、安全管理等についての研修を実施します。
- ⑧さまざまな主体の連携による森林環境教育・木育の取組を広げていくため、総合窓口機能の充実等による、みえ森づくりサポートセンターの活用を一層促進するとともに、県民や次世代を担う子どもたちに森や木に対する理解を深めていただくためのイベントの開催、森林環境教育・木育の指導者のレベルに応じた段階的な研修を実施します。
- ⑨「みえ森と緑の県民税」の市町交付金事業により、引き続き、地域の実情に応じた森づくりを進めるとともに、市町と連携し、さまざまな機会や媒体を通じて、税事業の成果についてわかりやすい広報に努めます。また、5年目を迎える税の見直しについては、市町等関係者との意見交換などを実施しながら、「みえ森と緑の県民税評価委員会」において、より効果的な税制度となるよう検討を進め、平成30年8月を目途に改定案を策定します。

## 主な事業

- ①「もっと県産材を使おう」推進事業【基本事業名：31301 県産材の利用の促進】  
 予算額：(29) 4,971千円 → (30) 3,023千円  
 事業概要：「三重の木」認証材をはじめとする県産材の情報発信、販路開拓、川上から川下までの県産材利用のネットワーク強化等に取り組み、県産材の利用拡大を図ります。
- ②（一部新）東京オリ・パラを契機とした県産材の販売力強化促進事業  
 【基本事業名：31301 県産材の利用の促進】  
 予算額：(29) 4,564千円 → (30) 5,423千円  
 事業概要：東京オリ・パラ関連施設等への県産森林認証材等の採用や、オリ・パラ後の販路拡大につなげるため、首都圏でのプロモーションや他地域と差別化したブランド戦略の推進に取り組みます。

- ③木質バイオマスエネルギー利用促進事業【基本事業名：31301 県産材の利用の促進】  
予算額：(29) 4,535千円 → (30) 3,402千円  
事業概要：木質バイオマスの安定供給体制を構築するため、木質チップ原料を供給する事業者による、枝葉等を効率的に発電所に供給する体制の構築を支援します。
- ④林業・木材産業構造改革事業【基本事業名：31302 持続可能な林業生産活動の推進】  
予算額：(29) 153,150千円 → (30) 250,424千円  
事業概要：林産物等の安定的な供給・利用の確保を図るため、搬出間伐や森林作業道の整備、木材加工流通施設の整備等に支援するとともに、優良種苗を安定的に確保するため、コンテナ苗の生産基盤施設の整備等に支援します。
- ⑤森林経営計画作成推進事業【基本事業名：31302 持続可能な林業生産活動の推進】  
予算額：(29) 46,969千円 → (30) 42,716千円  
事業概要：森林経営計画の作成に必要な森林情報の収集・整理、立木調査や路網調査、説明会・個別訪問等による合意形成活動のほか、森林境界の明確化に対し支援します。
- ⑥造林事業【基本事業名：31302 持続可能な林業生産活動の推進】  
予算額：(29) 375,031千円 → (30) 459,329千円  
事業概要：森林の有する多面的機能の維持・増進や持続的林業生産活動等の推進を図るため、間伐を促進するとともに、再造林や下刈り、路網整備等を支援します。
- ⑦林道事業【基本事業名：31302 持続可能な林業生産活動の推進】  
予算額：(29) 404,208千円 → (30) 413,111千円  
事業概要：木材の生産や搬出に必要となる林道を開設するとともに、輸送力の向上と通行の安全の確保等を図るため、既設林道の改良等を実施します。
- ⑧（一部新）豊かな森と地域を担う人づくり事業  
【基本事業名：31303 林業・木材産業の担い手の育成】  
予算額：(29) 2,606千円 → (30) 6,433千円  
事業概要：みえ森林・林業アカデミーの開講に向け、カリキュラムの作成や受講生募集の準備等を行います。また、高校生等への就業体験の開催や、労働災害の削減に向けた安全衛生指導員の養成、労働現場の巡回指導等の取組を支援します。
- ⑨（新）みえ森林・林業アカデミー設置・運営事業  
【基本事業名：31303 林業・木材産業の担い手の育成】  
予算額：(29) — 千円 → (30) 3,074千円  
事業概要：平成31年4月の開講に向け、みえ森林・林業アカデミーを周知し、受講対象者にPRするため、平成30年10月にプレ開講し、記念シンポジウムやワークショップ、公開講座を県内各地で開催します。

⑩森林環境創造事業【基本事業名：31304 森林の適正な管理と公益的な機能の発揮】

予算額：(29) 73,698千円 → (30) 83,304千円

事業概要：森林の有する公益的機能が持続的に発揮されるよう、環境林等において森林所有者等が市町と協定を締結した森林を公共材と位置づけ、強度間伐等により針葉樹と広葉樹の混交林へ誘導するなど、森林の適正な管理を進めます。

⑪災害に強い森林づくり推進事業【基本事業名：31304 森林の適正な管理と公益的な機能の発揮】

予算額：(29) 392,067千円 → (30) 401,980千円

事業概要：「みえ森と緑の県民税」を活用して、「災害に強い森林づくり」を進めるため、流木となるおそれのある溪流沿いの樹木の伐採・搬出とともに、治山施設等に異常堆積した土砂や流木の撤去等を行います。

⑫みんなでつくる三重の森林事業【基本事業名：31305 みんなで支える森林づくりの推進】

予算額：(29) 856千円 → (30) 599千円

事業概要：「企業の森」に取り組む企業に活動フィールドや森林施業の提案、所有者との調整などのサポートを行うとともに、企業の森づくり活動に関する情報発信を行います。また、緑の募金活動のPRのほか、県民参加の緑化活動や森林づくり活動を推進します。

⑬森を育む人づくりサポート体制整備事業【基本事業名：31305 みんなで支える森林づくりの推進】

予算額：(29) 27,195千円 → (30) 30,000千円

事業概要：市町や学校等での森林環境教育や木育、森林づくり活動にかかる相談窓口となる「みえ森づくりサポートセンター」を運営し、各種相談や情報発信、森林環境教育プログラムの提供を行うほか、森林環境教育指導者や森づくり技術者の育成を行います。

⑭みえ森と緑の県民税市町交付金事業【基本事業名：31305 みんなで支える森林づくりの推進】

予算額：(29) 736,527千円 → (30) 712,700千円

事業概要：「みえ森と緑の県民税」を活用して、「災害に強い森林づくり」および「県民全体で森林を支える社会づくり」を推進するため、市町が地域の实情に応じて創意工夫した森林づくりの施策を展開できるよう交付金を交付します。